

令和8年度 病害虫発生予察情報

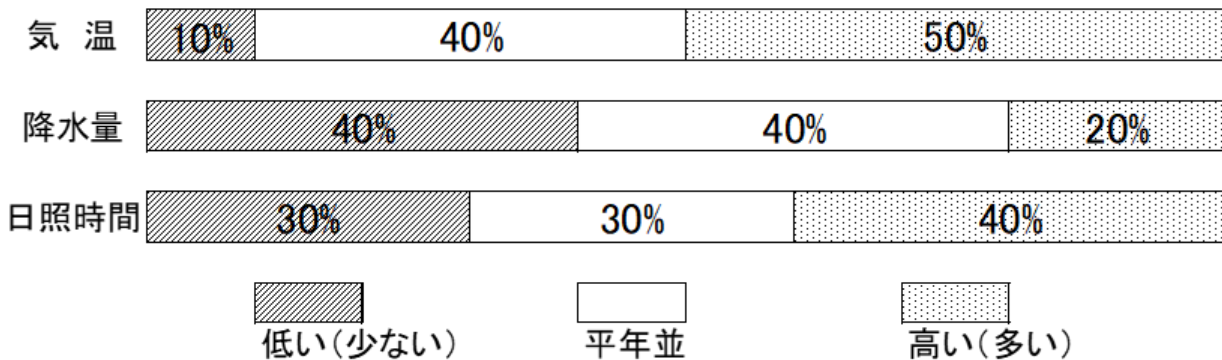
発生予報第4号（7月）

令和8年7月3日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量	
普通作物	イネ	葉いもち	平年並	
		紋枯病	平年並	
		縞葉枯病	平年並	
		黄化萎縮病	平年並	
		ヒメトビウンカ	平年並～やや多い	
		ニカメイチュウ	やや少ない～平年並	
		ツマグロヨコバイ	平年並	
		セジロウンカ	平年並～やや多い	
		トビイロウンカ	平年並	
		コブノメイガ	平年並～やや多い	
果樹	ナシ	斑点米カメムシ類	やや多い	
		黒斑病	平年並	
		黒星病	平年並～やや多い	
		シンクイムシ類	やや多い	
		ハマキムシ類	やや多い	
		ハダニ類	平年並	
		アブラムシ類	やや少ない	
		カキ	円星落葉病	やや多い
			カキミガ	平年並
		野菜	果樹全般	カメムシ類
イチゴ	うどんこ病		多い	

中国地方1か月予報(7月4日～8月3日・広島地方气象台7月2日発表)
 <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方	県内全域
発生時期	平年並
発生量	平年並

予報の根拠

- ① 6月17日に本田での初発生を認めた。
- ② 6月下旬の巡回調査(70ほ場)では発生を認めていない(平年の発生ほ場率1.1%、発病株率0.3%)。
- ③ 6月2～9日、21～25日を中心に、県内各地で感染好適日が出現している。
- ④ 常習発生地では育苗箱施薬の実施率が高い。
- ⑤ 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方	県内全域
発生時期	平年並
発生量	平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査(70ほ場)では発生を認めていない(平年の発生ほ場率0.3%、発病株率0.0%)。
- ② 常習発生地の一部では育苗箱施薬が行われている。
- ③ 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(3) 縞葉枯病

予報内容

発生地方	県内全域
発生量	平年並

予報の根拠

- ① 6月23日に本田での初発生を認めた。
- ② 媒介虫のヒメトビウンカの発生量は平年並～やや多いと予想される。
- ③ 4月中旬の越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%(平年0.8%)と低い。

(4) 黄化萎縮病

予報内容

発生地方	常習発生地
発生量	平年並

予報の根拠

- ① 近年、本病の発生は少ない。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方	県内全域
発生量	平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査の結果、本種の発生ほ場率は17.3%(平年27.3%)、捕獲数は6.6頭/50株(平年3.1頭/50株)と、本種の発生量は平年に比べてやや多い。また、一部で捕獲数の多いほ場が認められた。
- ② 6月第5半旬までにネットトラップ(出雲市)で1頭(平年値2.2頭)が誘殺された。予察灯(出雲市)での誘殺は確認されておらず、誘殺数は平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

(6) ニカメイチュウ (第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、被害株率は0% (平年 0.22%) と、発生量は平年並みである。
- ② 6月第5半旬までの予察灯における誘殺数は13頭 (平年値 74.4頭)、フェロモントラップにおける誘殺数は15頭 (平年 93.3頭) と、誘殺数は平年よりやや少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(7) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査の結果、本種の発生ほ場率は8.9% (平年 15.4%)、捕獲数は0.8頭/50株 (平年 1.0頭/50株) と、本種の発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(8) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査の結果、本種の発生ほ場率は17.8% (平年 36.3%)、捕獲数は5.8頭/50株 (平年 2.9頭/50株) と、本種の発生量は平年並みである。
- ② 6月第5半旬までに予察灯 (出雲市)、粘着板予察灯 (出雲市) およびネットトラップ (出雲市) において本種の誘殺は認められていない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(9) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬に実施した巡回調査の結果、本種の発生ほ場率は0% (平年 0.2%)、捕獲数は0頭/50株 (平年 0頭/50株) と、本種の発生量は平年並みである。
- ② 6月第5半旬までに予察灯 (出雲市)、粘着板予察灯 (出雲市) およびネットトラップ (出雲市) での誘殺は認められていない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、ほ場での発生は認めていない。
- ② 6月第5半旬までに粘着板予察灯 (出雲市) において1頭 (平年 0頭) が捕獲された。予察灯 (出雲市)、ネットトラップ (出雲市) での本種の誘殺は認めていない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(11) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬に実施したほ場周辺雑草地でのすくい取り調査の結果、斑点米カメムシ類の発生ほ場率は84.0%（平成27年74.5%）、捕獲頭数は20.8頭/20回振り（平成27年14.2頭/20回振り）と、斑点米カメムシ類の発生量は平成27年に比べてやや多い。主要種はアカスジカスミカメである。
 - ② 6月第5半旬までの予察灯（出雲市）における斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメおよびアカヒゲホソミドリカスミカメ）の合計誘殺数は44頭（平成27年48.4頭）と平成27年並みである。
 - ③ 向こう1か月の気象は、特に本種の発生を抑制する要因とはならない。
- 注）令和8年度 病害虫発生予察情報 技術情報 第5号参照

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 平成27年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率6.9%（平成27年5.9%）と、発生量は平成27年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平成27年並～やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、発病葉率2.4%（平成27年0.7%）と、発生量は平成27年に比べてやや多い。また、一部で極めて発病葉率の高いほ場を確認した。
 - ② 向こう1か月の気象は、本病の発生に抑制的である。
- 注）令和8年度 病害虫発生予察情報 技術情報 第3号参照

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平成27年並
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① フェロモントラップ（出雲市）でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺時期は平成27年並み、誘殺数は平成27年よりやや多い。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平成27年並
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 県予察ほ場（出雲市）のフェロモントラップにおけるハマキムシ類雄成虫の誘殺時期は平成27年並み、誘殺数はやや多い。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

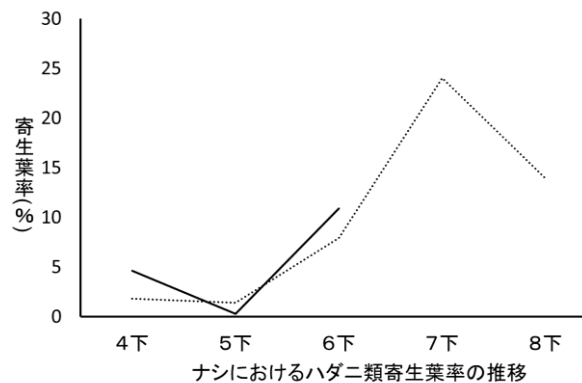
(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、寄生葉率 10.9% (平年 7.9%)、寄生虫数 18.9頭/50葉 (平年 15.2頭) と平年並みである (右図参照)。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。



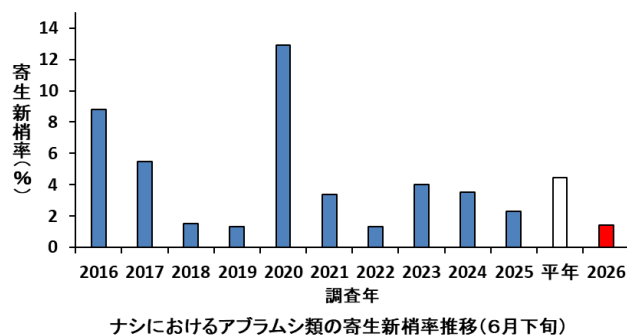
(6) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 6月下旬の巡回調査では、寄生新梢率 1.4% (平年 4.5%)、寄生度 0.5 (平年 2.0) と平年に比べてやや少ない (右図参照)。
- ② 黄色水盤への有翅虫飛来数は平年に比べてやや少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) 円星落葉病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 (感染量) やや多い

予報の根拠

- ① 前年10月の調査では発病葉率 14.6% (平年値 6.6%) であり、伝染源量はやや多いと考えられる。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生に抑制的である。

(2) カキミガ (第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 前年の第2世代幼虫による被害は平年並みであり、越冬量は平年並みと考えられる。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

3) 果樹全般

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域 (特にナシ無袋、カキ栽培地帯)
発生量 やや多い~多い

予報の根拠

- ① 6月第5半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ3種の合計誘殺数は 871頭 (平年値 338.7頭) と平年に比べてやや多い。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

注) 令和8年度 病害虫発生予察情報 技術情報 第4号参照

C. 野菜

1) イチゴ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 多い

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率 100%（平年 45.9%）、発病葉率 33.3%（平年 9.0%）と、発生量は平年に比べて多い。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生を助長する要因とはならない。

注) 令和8年度 病害虫発生予察情報 注意報 第1号参照

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

農林水産省ホームページに、農薬登録情報提供システムが掲載されています。

農林水産省農薬登録情報提供システムのアドレスは <https://pesticide.maff.go.jp/>

島根県病害虫防除所

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町 2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp